

循環器内科紹介

-見逃さないで!足の血流障害と早期紹介の重要性-



循環器内科 部長 佐藤 慎二

はじめに

2026年4月より循環器内科に赴任いたしました佐藤慎二と申します。

これまで愛媛県内において、CRTやICDといったペースメーカーによる心不全の治療に加え、心血管インターベンション治療専門医として、心血管のカテーテル治療にも携わってまいりました。

心血管とは、心臓の血管(冠動脈)だけでなく、下肢動脈を含む全身の血管を指します。下肢動脈の狭窄や閉塞による末梢動脈疾患(PAD)は歩行障害を引き起こすだけでなく、運動量の低下を介して全身の動脈硬化を進行させ、冠動脈疾患や脳血管疾患のリスクを高めることが知られています。そのため、予後にも大きく影響する重要な疾患です。

最近では、さらに高齢化や糖尿病患者が増加しており、末梢動脈疾患は年々増加しています。そういった背景もあるため、カテーテル治療と併せて、当院の糖尿病専門医と連携をとりながら、糖尿病診療にも尽力しております。

末梢動脈疾患について

末梢動脈疾患は、初期症状は見逃さ

れやすく、重症化すると潰瘍や壊死を来し、最悪の場合は切断に至ることもあります。

日常診療において、以下のような症状を認めた場合には血流障害を疑うことが重要です。

- ・歩行時の下肢痛(間欠性跛行)
- ・足の冷感や色調変化
- ・治りにくい足の傷や潰瘍
- ・安静時の疼痛(特に夜間)

これらの症状は整形外科疾患や皮膚疾患と紛らわしく、判断に迷うことも少なくありません。そのような場合でも、早期にご紹介いただくことで重症化を防ぐことが可能です。

また、症状が軽くても、糖尿病がある場合は一度精査を受けることをご検討ください。地域の先生方より当院に紹介していただければ、皮膚科、形成外科、整形外科、糖尿病内科、循環器内科で評価させていただきますので、よろしく願いいたします。

診断について

また、全国的にみても新しい取り組みにはなりますが、当院では心血管イ

ンターベンション治療専門医と日本IVR学会専門医(放射線科)が連携し、お互いの強みを生かし、最新の画像診断を基に安全かつ有効なカテーテル治療を行っております。さらに診断から治療後のフォローまで、糖尿病専門医を中心としたフットケアチーム、皮膚科、形成外科と協力し、創傷管理を含めた包括的な診療を提供しております。当院には複数の糖尿病専門医が在籍しており、潰瘍予防を含めたフットケアや患者教育にも力を入れております。重症例において外科的血行再建が必要と判断される場合には、地域の基幹医療機関と連携し、速やかな治療につなげております。

最後に

「足の傷がなかなか治らない」「原因不明の下肢症状がある」「フットケアや予防の介入が必要か迷う」といった症例でも、ぜひお気軽にご紹介ください。早期の介入が患者さんの生活の質を守ることに繋がります。

地域の先生方と連携しながら、下肢虚血による重症化や切断を防ぐ医療に取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

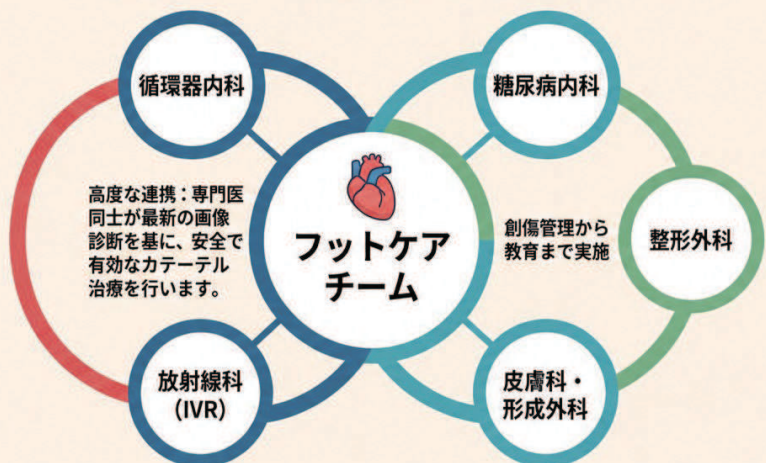
早期発見のための4つのチェックポイント



糖尿病患者は無症状でも精査の対象
糖尿病があるだけで精査の十分な理由となり、早期介入が切断回避の鍵となります。

全身の血管リスクのパロメーター
下肢動脈の病変は、冠動脈疾患や脳血管疾患のリスク増大にも直結します。

当院の強み：専門医連携による包括的ケア



地域の先生方へ：まずはお気軽にご相談を
原因不明の下肢症状や、予防介入に迷う症例でも、
早期の紹介が患者さんの足を救います。

